



学校だより

令和 3年 3月11日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元氣な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.521

シャボン玉 飛んだ

校長 谷田 弘子

令和2年度も、残り10日となりました。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、2ヶ月の休校から始まりました。休校が終わっても、分散登校、分散授業が続き、かつて経験したことのない教育活動が続きました。保護者の皆様には、多大なるご協力とご支援をいただき、何とか乗り越えることができました。ありがとうございます。計画していた行事は予定通りに行うことができず、新しい考え方で工夫をして実施しました。校外学習や移動教室など、外に出る行事や児童が協力して行う行事の実施ができず、その点では各学年の繋がりが希薄になってしまったのではないかと、今後の気がかりです。

しかし、児童は常に元気で、前向きでした。児童が、さまざまな活動に積極的に取り組んでいる姿から、教職員はパワーをもらいました。教育活動のICT化が一気に進みましたが、児童はすぐに慣れ、順応性がすばらしいです。1年生がタブレット端末の画面を見ながら、パスワードを打ち込み、田柄第二小学校のホームページを閲覧している様子を見るにつけ、ある種の驚きを感じる毎日です。令和3年度もコロナ禍は続くと思いますが、今年度に学んだ「新しい生活様式」を基に、新たな挑戦や工夫ができることを創造していきます。

さて、皆さんは、「七つの子」という歌を知っていますか。「からす なぜなくの からすは山に かわいい七つの子があるからよ」という歌です。ここで問題ですが、「七つの子」というのは、「七歳の子ども」のことでしょうか、「七羽の子ども」のことでしょうか。正解は、「七歳の子ども」です。昔は、子供と言えば「七歳」が一般的、代表的でした。今でも、「七、五、三」のお祝いとして、三歳、五歳、七歳にはお祝いをする習慣が残っています。この「七つの子」は野口雨情という人が作詞した歌です。野口雨情は茨城県出身で、北原白秋、西條八十とともに、「童謡界の三大詩人」と言われた人です。童謡や流行歌などの作品で有名な中山普平と組み、「証城寺の狸囃子」など、多くの名作を残しました。

ところで、皆さんはシャボン玉を飛ばして遊んだ思い出はありますか。たぶんほとんどの人が一度は

やったことがあるのではないのでしょうか。野口雨情が作詞した歌に「シャボン玉」という歌があります。「シャボン玉 飛んだ 屋根まで飛んだ 屋根まで飛んで こわれて消えた」という歌です。歌ったことがあるのではないのでしょうか。

野口雨情という人は、子供が大好きな人でした。それでたくさんの童謡を残したのですが、結婚してもなかなか子供に恵まれず、「子供がほしい」「子供がほしい」とずっと願っていました。その願いが神様に通じたのか、27歳の時に、やっと子供が生まれました。野口雨情はどんな気持ちだったのでしょうか。野口雨情は、もううれしくてうれしくて、病院にかけつけました。しかし、待ち望んでいた子は、かわいそうに、生まれてすぐに亡くなってしまったのです。その悲しみを歌ったのが、「シャボン玉」です。「シャボン玉」の歌は、亡くなった子への野口雨情の鎮魂歌だとも言われています。「シャボン玉消えた 飛ばずに消えた 生まれてすぐに こわれて消えた 風 風 吹くな シャボン玉 飛ばそ」と続きます。シンプルで歌いやすい歌詞は、思わず口ずさみたくなります。楽しく歌いたくなります。でも、「シャボン玉」の歌を作詞した野口雨情の気持ちを考えながらこの歌を歌うと、歌い方も違ってくると思います。歌だけでなく、物語、詩、短歌や川柳、俳句など、作った人の気持ちや文章の意味をしっかりと考えて、歌ったり読んだりすることはとても重要です。そうすることで、聞いている人たちの心に響くものになることなのでしょう。

今年度は、歌や合奏が制限されている行事が続きました。卒業式も歌を歌うことはできません。生演奏もできないため、5年生の参加はありません。当日は、5年生が演奏した曲の録音を流す形で卒業生が入場することになります。少し寂しい気がします。在校生や保護者、教職員はできるかぎりの気持ちを込めて、卒業生を送ろうと思っています。また、卒業生は短いよびかけや卒業証書授与前のコメントを通して、自分たちの願いや決意、気持ちなどを表現します。参加している保護者や教職員、参加できない来賓の方々や地域の皆様の卒業生を応援する気持ちを心に刻みながら、素晴らしい晴れ姿を見せてくれることなのでしょう。